2024-1

ひょうご森林ボランティア 第13号

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

森林ボランティア活動はどうあるべきか～歴代会報トップページからの学び～

兵庫県 農林水産部 治山課 森づくり普及班長　井上 裕司

１ はじめに

森林ボランティア団体連絡協議会会報のトップを飾る歴代の挨拶ページは、森林ボランティア活動がどうあるべきかを考えるうえで参考となる、宝物のような言葉であふれています。

この機会に、私がセレクトした“言葉たち”をご紹介します。

２ トップページを飾った言葉たち（役職名等は発行当時のものを使用。下線は、小生による。）

私達が出来る事は、色々な活動で得た知識・技術・技能を自分１人で抱えず、より多くの人へ伝えていく事の大切さを再認識し展開する事です。自然の中では手をかければ必ずそのお返しがあり四季折々の美しい景観に接する機会を与えてくれ、感性を磨き健康という贈り物を頂く事も出来ます。

社会的な価値や生きがいを見つける事ができ、社会貢献の達成感や精神的な充実感を得ると言う非常に大きなご褒美を頂く事も出来ます。（第２号(2012/11)より　協議会副会長・NPO法人ひょうご森の倶楽部会長　福田正氏）

本気で社会問題に果敢に挑戦する若人を育成してこそ私たちの願いが継続的に取り組まれるものと大きく期待しています。（第３号(2013/11)より JUON(樹恩)NETWORK　常任理事　重元勝氏）

私たちは、単に森林ボランティアに終わるのではなく立派な知識と技術を持った＜森林管理士＞(仮称)であり＜環境再生士＞(仮称)でなければならないと思います。これらの実力を持った人々が増えれば社会的評価も自然に高まるのではないでしょうか。（第４号(2014/12)より　協議会会長・ブナを植える会会長　桑田結氏）

今後、「地球の自然はどうなるの？」、「私の生活は大丈夫なの？」との関心を抱くような機会または抱く仕掛けを作らねばなりません。そして、『みどり豊かな森林を育てることこそが唯一の方法』に希望を持てるような、最終回答を論理的に導く活動が必要です。（第５号(2015/12)より　ナシオン創造の森育成会理事長　小西一郎氏）

若い人からボランティア活動の入り口がわからないと言う意見が有りました。この辺りに私たちが今一度、努力するポイントがあるのではないでしょうか。是非とも、若者に森づくりの楽しさを、伝えたいですね。（第８号(2019/1)より　協議会会長・(一社)ブナを植える会代表理事　桑田結氏）

これらの知識を皆さん一人、一人の教養として、また楽しみとしてのみ保持するのはたいへん惜しいのではないでしょうか。これらの知識を社会に還元、もっと具体的に言えば小学校３年生、５年生などの自然体験教育に生かしていただけないでしょうか。皆様の知識と組織力があれば、たくさんの子供達の自然体験教育が可能となります。（第10号(2021/1)より　兵庫県立南但馬自然学校学長・北摂里山大学学長　服部保氏）

３ 言葉を受けて

いかがでしたか？何が正解ということではありませんし、皆さん一人ひとり、森林ボランティア活動に対する“言葉”をお持ちだと思います。

皆さんの言葉を聞きたいです。皆で気軽に意見を交わせられる場として企画致します交流会等に、是非、ご参加願います。

※本誌バックナンバーは、県ホームページからダウンロード可能です。

会員団体の活動紹介

六甲山を活用する会（神戸市）

１．六甲山上で 22 年間の活動

当会は 2002 年 9 月に、「兵庫県地域ビジョン委員会」の有志で設立し、当時リニューアルした「六甲山自然保護センター」と周辺地域の活用に取り組み、22 年目になる。現在の会員は 67 名で活動への総参加者は年間 300 名程度である。

２．活動の要点と実績

初期は活動舞台の六甲山を知る地域研究として､「六甲山魅力再発見市民セミナー」を開催し、15 年間で延べ 132 回を重ねた｡3 年毎に報告書を編集した『六甲山物語』を発刊し、さらに全 5 冊を再編集して『六甲山発郷土誌』に集約した。これらはホームページに閲覧できるように公開している。

この広い知見に基づく地域での実践活動に着手し、放置山林を環境学習林に再生する試みとして､「アセビ伐採調査」や「まちっ子の森づくり」を行った。ほぼ同時に、隣接する近畿自然歩道の景観整備にも取り組んだ。これらは、記念碑台周辺に「森と歴史の散歩道」コースとして定期点検・整備を続けている。

また「まちっ子の森」を拠点にした「環境学習プログラム」は年間 3 回開催して 13 年になる。

３．直面している課題

「まちっ子の森」の整備と環境学習、「森と歴史の散歩道」の定期点検と散策機会の提供など、「六甲山らしい素朴な自然環境」の保全と活用を続けて､それらの認知が定着し利用者も大幅に増加している。

「森と歴史の散歩道」に隣接するシュラインロードの石仏周辺のササ刈りも着手したが、石仏に関心を払わず通過するハイカーがほとんどで､200 年佇む歴史文化遺産の存在が注目されず忘れられていく光景に「もったいない！」と危機感を抱いた。

2022 年から神戸市地域活動団体の補助金を得て、3 年計画で「石仏見守り活動」に着手した。六甲山の自然環境のみならず、見落とされる地域の営みや歴史文化に脚光をあてる重要さを痛感している。山麓の関係人口への働きかけ、地権者や地域住民の協賛を求めるのは予想外に難しく、多くの市民に活動を広報して参画者を募る正念場を迎えている。

第 33 番石仏に案内用の「標柱」を設置

ブイブイの森クラブ（三田市）

１．クラブの概要

会員数 34 名（うち女性 12 名）。

2011 年よりボランテイア団体設立に向け三田市が南公園里山講座を開催し、2017 年 4 月にブイブイの森クラブが発足する。活動参加者は毎回十数名｡ブイブイの森の特徴は①ニュータウンの中にありながら約 15ha と比較的まとまった面積があること。②現在、シカが生息していない。③居住地に隣接していながら生物多様性を保全していくことができる点である。

伐採した竹を使ってベンチ作り

ブイブイの森クラブのメンバー

２．活動内容

第一土曜日、第二金曜日、第三金曜日、第四土曜日の午前 9 時から 12 時まで。

竹や常緑樹の伐採、草刈りなど遊歩道の整備を行っている。近年は地元の散策者のみならずハイキング団体の訪問も見られるようになり、夏には昆虫採集の親子連れも増えて､身近に自然を感じられる森になったのではないかと思われる。また、近隣小学校や高等学校の環境体験学習の場としても活用され､ノコギリを使った伐採体験も行っている。

３．問題点、今後に向けて

ナラ枯れ木の倒木が相次いでおり、枯木の放置は危険である。大径木の処理は我々の手には負えず行政に依頼せざるを得ない。市民に向けたイベントはまだ行っていないので今後の検討課題として考えていきたい。

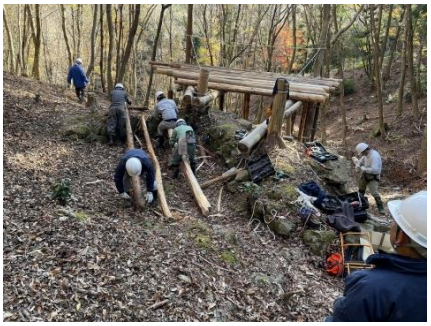
虹技（こうぎ） 森林ボランティア（姫路市）

虹技がボランティアを始めたのは2015年、今年で8年目を迎えます。登録しているボランティアメンバーはOBも含めると40名ほどで毎月第2土曜日の9時から15時の間作業をしています。活動場所は姫路市夢前町にある里山を利用した自然公園「兵庫県立ゆめさきの森公園」です。

この公園の面積は約180haあり、通宝寺池を中心にして、300m前後の山稜に取り囲まれた緑と水が豊かな里山の公園です。ここで約1haの土地をお借りして「虹の森」と名付け、森林整備を開始しました。

活動地「虹の森」に向かうメンバー達

活動の頻度は毎月一回（第2土曜日）で、毎回12名程度のボランティアが集まります。作業内容は、雑木林の下草刈り、常緑照葉木（ツバキ等）の伐木、散策道の整備、補修作業、小鳥の巣箱の設置、遊歩道の作成・整備、他ボランティアとの合同作業の参加などです。さらに毎月作業が同じだと飽きがくるため、ツリーデッキの製作や、シイタケの栽培なども行っています。



みんなでウッドデッキを作成中

ボランティア活動以外にもゆめさきの森公園で5月と10月に開催される「ゆめさきの森まつり」へ模擬店を出店し、また会社関係者向けにアユつかみイベントやツリークライミング、餅つきイベントなども開催し、大人から子供までみんなに森での自然体験を通じて森林の役割と重要性を感じてもらえる活動も行っています。

いままでの活動のおかげで、会社の環境貢献活動として認知してもらえるようになり、会社からの補助をもらえるようになりました。また、最近では新入社員研修のカリキュラムにも組み込んでもらえて、若い人たちに森林の大切さを学んでもらっています。

「森林ボランティア講座・リーダー入門編」を受講して

櫻守の会　瀧本　浩一

2017年の春に家の近所を散歩していて櫻守の会の会員募集パンフレットを目に留めました。小さい頃から野山に親しんでいた私には、自然の中で汗を掻きながら、健康増進にもつながるピッタリのボランティア活動だと思いました。以来、割と真面目に活動に参加しているつもりです。2020 年には北摂里山大学を受講し、森林ボランティアの基礎を学びました。その後、いくつかの活動地でリーダーの見習いをさせてもらったり、宝塚市内の小学校で環境体験学習を実施したりしました。そのような中で、「森林ボランティア・作業グループのリーダー」としての知識・技術を体系的に学び、整理したいと考えたのが受講動機です。

講座では、以下の内容がカバーされました。①里山林の管理、兵庫県の森づくり、森林観察 ②森林ボランティアリーダー像、森林環境教育、森林整備（里山林除間伐）の指導 ③植生調査と森の整備計画 ④救急救命講習、リーダーのための安全管理講習 ⑤森林整備（人工林間伐）指導 ⑥クヌギ苗の植林、交流会、修了式。

カリキュラムは長年にわたるノウハウが凝縮されとても良く練られたものでした。講義と実習のバランスが程よく取り入れられ、講師陣や大勢の実習支援者からの実践的なアドバイス・ヒントを受けながら、リーダーとしてのスキルと自信を高めることができました。また、他の受講生とのディスカッションやグループワークを通じて、様々な意見や経験を共有することもできました。

入門編受講者を指導する瀧本さん

会に入会して6年、習慣の中で身に付いてしまった悪癖、安全な作業をついつい疎かにしてしまう自分自身の行動を改めて省みる良い機会となりました。一番興味を持ったのは「森林ボランティアリーダー像」ですが、少し時間が足りませんでした。この齢で自分のリーダーシップスタイルを変えていくことは難しいところもありますが、講座で学んだ点を今後の活動の中で少しでも活かしていきたいと思います。

森づくりに貢献のあった団体・個人が次の賞を受賞されました（敬称略）

- **県功労者表彰（環境功労）**：木原　薫（的形ふるさと里山会）
- **地域環境保全功労者 環境大臣表彰**：三田里山どんぐりくらぶ
- **「みどりの日」自然環境功労者 環境大臣表彰**：川西里山クラブ
- **ふれあいの森林づくり表彰 国土緑化推進機構会長賞**：ほくら～ ととや森の世話人倶楽部
- **環境保全功労者 知事表彰**：あびき湿原保存会
- **環境保全功労者 知事表彰**：大和フォレストクラブ
- **さくら功労者**：ゆめほたる里山クラブ

三田里山どんぐりくらぶ（三田市）

小学校3年里山体験学習
雑木の手鋸による間伐

今回の環境大臣表彰受賞については、思いもよらぬ出来事であり、心の準備も出来ていなかったと言うのが率直な感じです。

これから会の活動をしていく上でも良い刺激・経験になり、推薦していただいた三田市、兵庫県の担当の方々に改めて感謝したいと思います。

当会は平成 10 年（1998 年）三田市農政課主催の森の学校卒業生有志により里山保全ボランティアとして発足しました。

目的「里山を守り、育て、楽しみ、ひろげる」活動を通じて里山と親しみ里山に対する理解を深めると共に、会員相互の交流を図り、里山保全意識の高揚を目指します。

活動場所はナナマツ森（三田市上槻瀬）。活動内容ですが、枯れ松、ナラ枯れ木、雑木の除間伐及び材を使っての炭焼き、薪作り、散策路の整備（路盤の整備、下草刈り、吊り橋・丸太橋整備、広場等の休憩ベンチ整備）、地元高平小学校・幼稚園の里山での体験学習支援（炭焼き材入れ・炭出し、ササユリ・モリアオガエルの観察、鎌による下草刈、手鋸による雑木間伐、沢遊び、焼き芋、バームクーヘン、ロープブランコ）、有馬富士フェスティバルへの参画などを行っています。

小学校3年里山体験学習
炭窯前で炭出し時の全員写真

どこの団体でも同じだと思いますが、出来た当初は会員も多く皆若かったと聞いています。でも現在は高齢化・減少化であり、いろんな策を試みたがまったくダメであり、会の存続も何時も考えながらの日々をおくっています。

会の存続云々はあるが、要は「楽しくなければ長続きしない」と今一番思います。同志求む！

川西里山クラブ（川西市）

エドヒガン植樹

この度環境大臣賞（いきもの環境づくり・みどり部門）を拝受しました。賞を拝し感じた事やこれまでの活動の中で印象に残った事を書き留めました。

私たちの活動地は、妙見山の中腹「妙見の森」にあります。この周辺は能勢電鉄株式会社の社有地で、活動地の交渉には川西市役所さんに当たって頂き、本格的に活動が始まりました。（利用に関しては川西市役所、能勢電鉄株式会社、川西里山クラブの三者協定が締結されています。）

印象に残る活動は、①エドヒガンの群生地を発見し、その調査結果によりシンボルツリーを決め、能勢電さんと共同で名前の募集を行い「出会いの妙桜」と命名。種から苗木を育て、一般参加でのエドヒガンの植樹。②この地ならではのクヌギを 5 か所に植樹。（他にも地域と協力してクヌギの植樹を実施。）

イベントなどの行事関係では①里山まつり、②桜や紅葉を楽しむための一般市民対象に散策会、③小学 4 年生の「里山体験学習」、④地域や企業と共同のイベントの実施。

里山体験学習

最近の雨に関しては異常な豪雨になり、谷筋を土石流となり深く溝が掘れ、「出会いの妙桜」の根元が抉れました。これの復旧作業①根の埋め戻し、②ネット柵の設置、③林床が裸地状態で鹿柵ネットを張り下草を生やす。このような作業を順に施工して 3 年目でやっと原状復帰が出来る目途が着きました。

次年度に向かってより一層頑張ろうと思っている矢先に、妙見ケーブルが廃止されると告げられ、今後の活動に大きな陰が差しました。今後も「日本一の里山」と称される黒川地区で活動地を見つけて頑張りたいと思っております。

ほくら～ととや森の世話人倶楽部（神戸市）

思いも寄らない「ふれあいの森林づくり表彰」国土緑化推進機構会長賞を受賞できたことに感謝申し上げます。

この賞は緑化の推進に顕著な実績を上げた団体を表彰する公益社団法人国土緑化推進機構が主催する表彰制度です。

森林を守り育てる大切さを伝える「第 46 回全国育樹祭」式典で表彰を受けました。

式典は茨城県水戸市内のアダストリアみとアリーナで茨城県と公益社団法人国土緑化推進機構の共催で約 2,000 人が参加して盛大に開催されました。

代表世話役（右）と事務局長（左）の笑顔

前夜祭の懇談会は秋篠宮皇嗣殿下、妃殿下ご臨席のもと開催されました。

2020 年 1 月 25 日（土）開催
「ヤマザクラ一斉植樹会」集合写真

懇談会では殿下、妃殿下から一人ひとりにお声掛けが有り、当倶楽部もヤマザクラの植樹･育樹活動について説明させて頂きました。殿下からは「ソメイヨシノのような華やかさは無いけれど、綺麗ですね。」とのお言葉を賜りました。

当倶楽部は 10 年前に神戸市東灘区の六甲背山の登山道沿いで活動する森の世話人の集合体組織として発足以来、「人をつなぐ・地域につなぐ・次世代につなげる」の活動理念をもとに、ヤマザクラを植えて育てる「岡本桜回廊づくりプロジェクト」を推進しています。

今回の受賞を励みに、役員の世代交代も行いながら、地域住民や新しい仲間との更なる連携を模索しつつ進めて参りたく思っています。

あびき湿原保存会（加西市）

あびき湿原の保全を始めて、丸 10 年がたちます。最初の 3～4 年はネザサ、イヌツゲ、イヌザンショウ、ノイバラ等との戦いでありました。一旦皆伐をしてしまうと、次年度からの作業は楽になり、余裕も出て来て、次の作業の段階に入り、いかに来場者が草花を見易いか、昆虫に近づけるかを考える様になり、色々な方策を会員で検討しました。湿原の中に木道を作ればより草花、昆虫に近づける、スマホで写真が撮れると言う事になり、湿原の周りの人工林を間伐して、丸太橋作りをしました。この当時は県立北条高校、播磨農業高校の生徒達 10 人程のボランティア、保存会員 20 数名と大所帯でしたので、2 年程で木道も完成しました。

地元高校生との植生調査の様子

保全を始めて、4 年目に地元の小学生を招いたところ、先生・子供達に気に入られ、教育委員会から市内全小学校 3 年生の環境学習の受け入れを要請され今に至っております。特に地元九会（くえ）小学校 3 年生は、保存会員が採取したユウスゲ、ノハナショウブの種を子供達が学校でプランターにまき、2 年間学校で育成させ、次の 3 年生が湿原に戻すという里親的な活動が今も続いております。同時にメンバーが湿原保全の刈った草を湿原外に持ち出す保全作業の体験をして、保全作業に関わった喜びを感じ取って貰って、中学生、高校生になった時、湿原の保全作業、植生調査等の活動に関わってくれればと願う次第です。今後も保存会だけの湿原じゃなく、地域と一体となった「あびき湿原」に育てていきたいものです。

地元高校生と一緒に保全活動

大和（だいわ）フォレストクラブ（川西市）

春の散策会　広場のイベント

場所は、大和団地（約 4,800 世帯）の開発未利用地として市に移管された団地周縁の斜面。40 年間放置され、鬱蒼とした森を形成していた。2011 年、近隣の有志が集まり、この森のうち約 1 ha を、「住民の憩いの場に変えること、子どもたちに自然体験の出来る場を提供すること」を目的に事業を開始し、この森を「大和の森」と名付けた。12 年間の作業で、不要樹木の除伐、散策道や階段、広場やベンチの敷設をほぼ終えた。

今後の活動は、整備された状態を維持して行くことが主たる作業となるが、整備目的である「住民憩いの場、あるいは自然体験の場」として、この森で何をするか、森をどのように活用するかという方向にシフトして行くことになる。「春･秋の散策会」、毎月定例の「森のカフェ」等の住民参加のイベントは 10 年余りの実績として定着している。

カブトムシ飼育作業

地元小学生の春・秋 2 回の環境体験学習も定例化してきた。毎年子供向けに、カブトムシ飼育、メダカ飼育、オオムラサキ飼育、藍のたたき染め、自然工作等の体験イベントも実施してきた。

こうした体験イベントをさらに発展させ､1 年を通じて自然を体験してもらうために、「ジュニア･ネイチャークラブ」の設立を目指して準備をしている。将来的には、この活動に保護者も参加してもらい、その中から森の整備にも参加する人が出てくることを期待している。

メンバーが高齢化する中、北摂里山博物館による「北摂里山 30」認定、「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」認定、「環境保全功労者・兵庫県知事表彰」は、大いに励みになっている。

ゆめほたる里山クラブ（川西市）

ゆめほたる里山クラブは、公益財団法人「日本さくらの会」から令和 5 年度の「さくら功労者」表彰を賜りました。川西市指定天然記念物のエドヒガン群落の保全活動をご評価いただきました。

エドヒガンの花見イベント
オレンジ色の上着がメンバー

クラブが活動しているのは、国崎クリーンセンター（川西市国崎）敷地内の里山林です。メンバーは、センター併設の環境啓発施設ゆめほたるで 3 期にわたって開催してきた｢里山学校｣(里山保全技術者養成講座)を修了した約 40 人。生物多様性豊かな明るい森を目指して、除間伐や危険木の伐倒、下草刈りのほか、シカによる森林被害対策のための防護柵点検など里山林整備の活動を幅広く行っています。また､バードウオッチングなどのイベントや小学校の里山体験学習の受け入れなどを通して、地域のみなさまに里山について知っていただく機会を提供しています。

エドヒガンに関しては、開花期の花見イベントで案内をしたり、専門機関によるエドヒガン調査に協力したりしてきました。

ゆめほたるでは現在、第 4 期の里山学校（令和 5 年 9 月～令和 6 年 3 月）を開催中で、半年の講座の修了後に受講者がクラブに加わってくれるのを、現在のメンバーが心待ちにしているところです。

さくら功労者の表彰式は 4 月 4 日､東京･永田町の星陵会館であり、クラブの代表ら 3 人が出席しました。式には全国から選考された個人 14 人と 22 団体（ゆめほたる里山クラブを含む）が一堂に会し、各地の活動状況を知り、おおいに刺激を受けることができました。

表彰を受けた
ゆめほたる里山クラブのメンバー

森ボラ協として、イベントに出展しました

ひょうご里山フェスタ 2023

『豊かな里山を未来へ～今、私たちができること～』をテーマに、10 月 22 日（日）国宝姫路城を仰ぎ見る大手前公園で、「ひょうご里山フェスタ 2023」が開催されました。

「ひょうご里山フェスタ」の前身は、昭和 31 年に姫路の手柄山で開催された「第 1 回兵庫県緑化大会」が始まりで、途中「ひょうご森の祭典」、「ひょうご森のまつり」と名称を変えながら現在に至っています。

姫路城は令和 5 年、日本で初めて世界遺産に登録されてから 30 周年を迎えました。その木造建造物である姫路城を仰ぎながら、森林や里山の大切さを伝えたいとの思いで、敢えて街中での開催にしたとのことです。

式典における森林ボランティア活動報告

プレイベント・里山林整備体験

従来「フェスタ」当日に行っていた『里山林整備体験』は、プレイベントとして 10 月 9 日（月・祭）に姫路市香寺町の「こうでら健康の森」で開催され、例年どおり当協議会が指導スタッフとして参加しました。里山林整備体験のほか五感で学ぶ森の観察会等があり、最後に地域の子どもを中心に記念植樹が行われました。

10 月 22 日の本番当日は晴天に恵まれ、盛大に開催されました。

当協議会は「的形ふるさと里山会」（姫路市）が中心となり、こうべ森の文化祭」でも出展している竹を利用した「立体ぶんぶんごま」の製作コーナーを設けました。子供から大人まで、70 人程の来場者で賑わいました。「渓のサクラを守る会」（川西市）が色々な竹細工を展示し、隣のテーブルでは、「あびき湿原保存会」（加西市）が、ムクロジの実の皮をペットボトルに水と一緒に入れて振ると石鹸のように泡がでる実験コーナーを設け、当協議会のブースは閉会まで賑わっていました。

こうべ森の文化祭 2023

突き抜けるような秋晴れの 10 月 29 日（日）に、「森で学んで楽しんで笑顔をふたたび」をサブタイトルに再度公園で開催された「こうべ森の文化祭 2023」に、森林ボランティア団体連絡協議会もテントブース出展して、兵庫県や神戸市の森林率をクイズとして出題しました。我々のテント以外にも沢山の団体がブース出展されており、落ち葉やドングリ、松かさを使った置物づくりや、木を切る体験、塩豚汁、六甲山で見つかるキノコなどを展示されており、ハイキングの途中に寄られた方や、親子でこのイベントに訪れた人々で大変にぎわっておりました。

今年は新たに「神戸登山プロジェクト」や「六甲山の各登山会」の出展もあり、後日主催者からの発表では、昨年から倍増の約 2,000 人の参加者があったとの事でした。

テントブース内で立体ぶんぶんごま作り

我々は、今年も「須磨の立体ぶんぶんごま」づくりのワークショップを開催しました。竹で作った土台にポスターカラーや色紙、立体にするための紙をノリや木工ボンドで貼り付けてタコ糸を通して完成です。後はこのコマをぶんぶん音が鳴るまで回すのですが、コツが必要で、メンバーが手をとって指導します。最初はなかなかうまく回らず途中で止まってしまうのですが、コツをつかむといつまでもまわすことが出来、できるようになった子供たちはパパやママに自慢そうに見せたり、あとから来た子供たちに得意そうに教えたりしている姿がとても印象的でした。一方でコツがつかめない大人たちも一生懸命練習して、回せるようになったときはとてもうれしそうにしておられました。

このように多くの方にご協力いただいたお陰で、「緑の募金」9 千円程を寄付することが出来ました。

森林ボランティア活動紹介広報誌「森と人と。」を発行しました(2023 年 11 月)

“森づくりの楽しさ”を、森に馴染みの薄い方々にも届け、森林ボランティア活動を身近に感じていただき、最終的には森林ボランティア活動に参加いただくことを目的に、県広報広聴課の全面的な協力のもと発行しました。

本広報誌のメインターゲットは、「子育ての負担が軽くなり時間的余裕が生まれる 40 代からと、第 2 の人生のあり方を模索している 60 代前半の現役世代」です。会員の皆様にお送りしますので、お知り合いの方などにお配りしていただくなど、会員募集のための 1 つのツールとしてご活用いただけますと幸いです。（追加配布も受付しておりますので、事務局までご連絡ください。）

PDF 版については、県ホームページ（右の QR コードまたは下記 URL）からダウンロード可能です。
（https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk21/documents/04_moritohito.pdf）

緑の募金へのご協力をお願いします!

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

森と緑は、二酸化炭素の吸収や水源のかん養などの働きを通じ、私たちの暮らしに欠かせない恵みをもたらしてくれています。このかけがえのない森と緑を守り育てていくため、公益社団法人兵庫県緑化推進協会では、緑の募金へのご協力をお願いしています。

なお、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会からの 2023 年 1 月～12 月の募金額は¥176,584-でした。

緑の募金へのご協力方法

1 金融機関からのお振込み

①郵便局(手数料不要)

専用の払込用紙がありますので、(公社)兵庫県緑化推進協会にご連絡ください。→電話 078-341-4070

② 銀　行(手数料必要)

次の口座へのお振り込みをお願いします。

三井住友銀行　兵庫県庁出張所　普通 3198438

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

2 キャッシュレス募金

ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでもご協力いただけます。

募金のページ QR コード

事務局から会員へのお知らせ

メールで助成金やセミナーなどの情報提供をしています。

未登録の団体で、希望される場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

（担当：治山課 森づくり普及班　石森）

chisanka@pref.hyogo.lg.jp

事務局 **兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会**

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

兵庫県 農林水産部 治山課内

ＴＥＬ　０７８－３６２－３６１３

ＦＡＸ　０７８－３６２－３９５２

会報に関する問い合わせ：桑田　結

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 3 丁目 5 番 29-106

Tel/Fax 078-851-0291

携帯 090-3166-9785

e-mail bunawouerukai.kobe@gmail.com